
「その男」

dirk nowitzki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「その男」

【Nコード】

N8664N

【作者名】

dirk nowitzki

【あらすじ】

人生という道を必死に生きる男。人は何がきっかけで「気が付く」のだろうか？

「その男」絶対だった存在が揺らぐ時。

S地区のミニバスケットボール大会で優勝後、都大会では敗戦してしまっただ。

しかし、学校ではすでに唯一無二のスターとなっていた。

皆の人気者である秋人に好かれるために周りの人間は集まった。何もかもが自分の思い通り、何を言っても許される環境に、秋人は天狗になった。

自分を嫌う人間は次々にイジメて、居場所を追いやっていた。

（俺は特別な人間なんだから当たり前だろ？悔しかったら、お前達も実力で証明してみろよ？まあ、俺みたいに外見も良くないと、実力だけじゃあ人気もそこそこで終わりだろうけどな？）

秋人の目に余る行動に教師は動いた。

毎日、毎週のように秋人のイジメ問題について学級会が開かれるようになった。

「龍咲君、君はどうして山田君をイジメるの？」

「だってアイツ、俺の筆箱盗んだんですよ？」

「山田君は龍咲君の人气が羨ましくてやってしまったって謝ったじゃない？」

「まあ、そうだけど。アイツ、その後から俺がやること全部、いちいちチクるんですよ？」

「それは龍咲君が山田君をイジメてるからでしょう？」

「俺、ああいう風に表向きはマザコンで、裏で汚い奴って嫌いなんだよなあ」

元々、山田は気持悪いとクラス内で嫌われている奴だった。

アイツ自身が変わらなければ嫌われて当然なのに、人の足ばかり引っ張る山田を俺はわかりやすく大声で性格の欠陥を教えてあげていただけだった。

教師もそれは分かっていただろうけど、俺のやり方も指導する必要があつたのだろう。

この頃から俺は教師が嫌いになった。自分がいつたい何を成し遂げて人に文句を言える身分になっているのだろうか？

そしてそれは自分にも言えることだとは、この時の秋人には気が付かなかった。

それほどにバスケットボールの実力が秋人という存在の自信に繋がっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8664n/>

「その男」

2011年10月6日18時04分発行